リハビリ研修会実施報告書

A：キャラジ市障害当事者団体　NGO ナセリにて

B：イマームホメイニ大学病院にて

2019 年イランホームケア活動（滞在期間 2019 年 10 月 26 日～11 月 2 日）
NPO 法人イランの障害者を支援するミントの会　によるリハビリプロジェクト活動報告

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

A. 障害者団体（NGO ナセリ）研修会

共催：キャラジ市障害当事者団体　NGO ナセリ
実施日：2019 年 10 月 28 日
会場：アルボルズ州マラッドある体育館
参加者：キャラジ市内の脊髄損傷者などの障害者とその家族など約 80 名

１）講演テーマ：「脊髄損傷のリハビリテーション～VTR 中心に～」

藤縄　光留

内容

① 神奈川リハビリテーションセンターの紹介
② リハビリの実践ポイント（バランス/動き方/柔軟性/筋活動/知覚の再構築）
③ 合併症（阻害要因）の理解と対策
④ 在宅生活に向けた支援など

講演スライドは事前に通訳であるテヘラン大学職員のモラディ女史に依頼して翻訳をしてもらい、当事者や家族向けに分かり易く説明するため、VTR を中心とした構成とした。

参加者は熱心に聞いており、講演後には沢山の当事者や家族から診療して欲しいとの依頼があり対応した。イランでは十分なリハビリを受けれていないためか、障害の説明や対策方法についての質問が多く、時間内では対応しきれない状況であった。特に多かったのは二分脊椎や脳性麻痺の子供達の親から足部変形（内反尖足）をどうしたらよいかという質問であった。日本では関節可動域療法や装具療法で対応するのだが、現地では装具の購入は難しく、バンテージなどでの簡易対策の必要性を感じた。

２）講演テーマ：「リハビリテーションエンジニアとしての活動の紹介」

辻村　和見

内容

① リハビリテーションエンジニアについて
② 神奈川リハビリテーション病院での活動について紹介
③ 祉機器・用具、リハビリテーションに関する研究開発について
④ 日本のすごい脊髄損傷者の紹介
⑤ 日本から持参した機器の取り扱い説明

障害者団体研修会にて、リハビリテーションエンジニア（以後、リハエンジニア）について、どのような活動を行っているかを紹介した。主に障害を持った方々が福祉機器・用具の活用することで生活の質が豊かになることなどをお伝えした。

参加者で車椅子を利用している方々のほとんどが、身体寸法に車椅子サイズがあっていないため、姿勢の崩れや活動の制限が多くあった。講演終了後は、できる限り車椅子の調整や改善点などのアドバイスを伝えた。また、日本から持ち込んだ、外出支援用具（けん引式車椅子補助装置）の実演。携帯型接触圧力測定器の使い方から、エンジニアの視点から褥瘡の発生のメカニズム、予防方法などの紹介も行った。講演終了後、車椅子のフィッティング相談の他、個別の臀部にかかる圧力の評価、イラン国内で手に入るクッションの性能評価など行い除圧方法などの個別指導を行った。しかし、比較できるものがほとんどなく、物があれば解決できるという考え方も強いため、日本のクッションの入手方法や購入金額など質問が多かった。そのほか気になったことが、車椅子や使用している用具の劣化状態である。自立を補助するための用具が、劣化破損により、ケガや二次障害につながる恐れがあるものが多かった。危険性を伝えたが、代替品や交換部品もなく、可能な範囲での改善点を伝えた。

イラン国内でのホームセンターなど視察が可能であれば、応用できる材料があったかもしれないと思った。

臀部の触診評価

携帯型接触圧力測定器による評価

バックサポートの評価・調整

けん引式車椅子補助装置のデモンストレーション

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

B. イマームホメイニ大学病院研修会

実施日：2019 年 10 月 31 日
参加者：大学病院に努める医療スタッフや教授など 8 名

１）講演テーマ：「脊髄損傷のリハビリテーション～文献的データと VTR にて～」

藤縄　光留

内容

障害者団体に行った講演内容と同様であるが、医療職向けに文献的資料を多く取り入れ、リハビリの実践場面は VTR で紹介した。連休と重なり参加者は少なかったが、女性の教授からは脊損者の死亡要因や再生医療についてなどの質問があり、有意義な意見交換が行なえた。参加できないスタッフのために VTR を撮っていたそうで、後日伝達をするとのことであった。

２）講演テーマ：「リハビリテーションエンジニアとしての活動の紹介」

辻村　和見

内容

障害者団体に行った講演内容と同様であるが、福祉機器・用具、リハビリテーションに関する研究開発について、細かく説明を行った。また、日本国内のすごい脊髄損傷者の動画などで紹介し、車椅子で階段を降りるシーンなど驚く場面もあった。また、パラスポーツやコミュニケーションエイドなどの開発機器に興味をもっていたようだが、通訳を通しているため、うまく情報が伝わったかが心配である。そのほか、エンジニアの視点から褥瘡の発生のメカニズム、予防方法などの紹介と携帯型接触圧力測定器を使用した圧力の評価のデモンストレーションを実施した。